

# 考古学実習レポート 第1回 (準備編)

調査参加者の7割を占める“考古女子”の奮闘を4回にわたって紹介します。(第2回は、12月号にて報告いたします)



1



2



3

① 國學院大學博物館前にある石棺で遺構実測の練習。千葉県佐倉市の大篠塚古墳から出土したもので、古墳時代後期(6世紀)のものと考えられている。② 穂高古墳群 F9 号墳。③ 平板測量の練習風景。現地ではトータルステーションをつかうが、測量の考え方を学ぶ。

## 発掘に必要な技術・知識を身につける

國學院大學考古学研究室では、毎年「考古学実習」として、全国にある遺跡の発掘調査と研究をおこなっています。参加する実習生のほとんどは、発掘調査は初めてという学生ばかり。しかも今年度は、参加者の7割が女子学生です。研究室は“考古女子”達で常に華やいています。いま、毎週金曜におこなわれる「考古学調査法」の授業と土曜の勉強会を通じて、8月に予定されている発掘調査のために必要な技術や知識を習得しているところです。

技術面は、調査につかう機材の使用方

法やその仕組み、そして記録として残す図面の作成方法を覚え、練習をします。測量機器の操作、平板測量、遺物実測のやり方と平面図のつくり方のほか、正式な記録として残せるような写真撮影の技術も学びます。

「数百年、数千年ものあいだ土中に埋もれていた過去の人々の遺物に直接触れるのは少し緊張します。でも、やっぱり期待の方が大きいですね」と考古女子。

## 調査するのは穂高古墳群 F9 号墳

今回調査するのは長野県安曇野市の穂高古墳群にある F9 号墳です。縄文王国

として有名な長野県には、優れた古墳文化もありました。穂高古墳群のある松本平には 350 基近くの古墳が確認されており、F9 号墳もその一つ。

6 世紀後半につくられた横穴式石室をもつ円墳です。國學院大學考古学研究室は 2009 年から毎年調査を実施してきました。これまで、石室(長さ約 7m、幅約 1.3~1.5m)の東壁と西壁、奥壁の石組みを確認し、土師器・須恵器・直刀・水晶製切子玉などが出土しています。

実習生を引率する深澤太郎准教授はこう語っています。

「さらなる調査で古墳時代の人々の生活や考え、この地域の歴史がわかる可能性があります。また、土中からは現在に至る様々な時代の遺物も出土します。そうした、古墳時代から現在まで、この土地が歩んできた歴史、ライフヒストリーもまとめてみたいと考えています」

深澤先生もかつては実習生でした。

「実際の調査は講義とは違って、応用問題だらけです。学生たちにはこの実習でよい経験を積んで欲しいと思います」

彼女らは何を見つけ、どんな経験をするのでしょ。その様子は改めてお届けしますので、楽しみに。

### 「穂高古墳群」見学会のご案内

國學院大學考古学研究室の教員と学生らによる発掘調査は 8 月 26 日(水)~9 月 3 日(木)の期間、国営アルプスあづみの公園の水辺の休憩所北側「F9 号墳」で行われます。古墳見学と古墳調査結果の解説を現地で実施します。

- ・開催日：9 月 2 日(水) 10 時 30 分集合 11 時 30 分散 小雨決行
- ・集合場所：公園内水辺の休憩場北側「F9 号墳」
- ・定員：60 名程度(幼児は保護者同伴)
- ・参加費：無料(※別途入園料必要)
- ・参加方法：当日受付

# 考古学実習レポート 第2回 (発掘編)

調査参加者の7割を占める“考古女子”の奮闘を4回にわたって紹介します。(第3回は、2月号にて報告いたします)



ここではふるいを持った実習生たちが待ち構えており、水をかけて洗いながら、さらに念入りに採取した土を調べていきます。考古女子の「出ました!」の声が上がるたび、大きな歓声が上がりました。

## 馬具が出土! そして古墳の全貌を知るカギも

調査するのは石室だけではありません。その北側では試掘溝が拡張されました。これは墳丘(古墳全体)の大きさ、カタチを探るためのもの。出土品は多くありませんが、周辺の地層をきちんと調べれば、古墳の全貌を推理することができます。また同時に、授業で練習したレベル(高低差)観測や、トータルステーション(測量機器)をつかって地形図を作成する実習生の姿もありました。最初は先生の指示通りに動いていた彼女たちも、いつしか各自の判断で動くようになっていきます。「発掘はチームプレーが大切なんです」と実習生たちは口々に話っていました。

9月2日には地元の考古ファンを招いての現地説明会を開催。今回の調査を率いる深澤太郎准教授から詳しい説明がありました。石室内からは新たに鉄鏃(鉄製のやじり)、須恵器(土器の一種)、水晶製と見られる切子玉、ガラス小玉などが出土。深澤先生が目付したのは馬具(乗馬に用いる装具)と赤色の顔料が含まれた土です。これから何がわかるのでしょうか。「出土品というモノに注目しがちですが、その出土状況から過去の出来事を復元していくことも考古学の醍醐味です」と語る深澤先生の指導のもと、実習生たちは大学にもどり出土品の整理、分析にとりかかります。その様子は改めてお届けいたしますので、楽しみに。



①穂高古墳群F9号墳の石室内を調査する実習生たち。  
②石室の床から出土した馬具。轡(くつわ)と見られ、最初に埋葬された人物と一緒に置かれた可能性が高い。  
③現地説明会には、50名をこえる考古学ファンが集まった。調査結果の説明に熱心に聞き入っていた。

## ホンモノの古墳を調査する実践授業

2015年8月26日、長野県安曇野市。今年も國學院大學考古学研究室の発掘調査が始まりました。小雨降る穂高古墳群F9号墳に集まったのは総勢40名以上の調査隊。10日間に及ぶ調査作業の中心となるのは「考古学調査法」を受講する実習生約20名です。先生や大学院生、OB、地元の研究者さんらの指導・協力を受けながら発掘調査を進めます。

実習生の多くはホンモノの古墳に入るのは初体験。最初は緊張気味で、恐る恐るといった様子でしたが、去年の調査後に埋められた土のうが取り除かれ、古墳内部の石室(石でできた埋葬施設)があ

らわになるころには、みな笑顔になっていました。泥がかかるのも気にせず、作業に没頭している“考古女子”の姿は、若手のりっぱな考古学者のよう。通りがかりの地元の人に質問を受け「古墳時代後期に築造されたとみられる円墳なんです」とスラスラ答える実習生もいました。

石室の調査では、最初に埋葬されたとみられる床面が確認できました。礫(砂利のこと)を敷き詰めた層が出てきたのです。表面を丁寧に掘削し、横に積み上げられた石の表面も慎重に調べていきます。しかし、土にまみれた古代の遺物を見分けるのは容易ではありません。採取した土はその場で慎重に調べたあと、石室の外にいるグループに渡されます。そ

# 考古学実習レポート 第3回 (整理編)

実習参加者の7割を占める“考古女子”の奮闘を4回にわたって紹介します。(第4回は、4月号にて報告いたします)

## 出土品とデータを整理し、その意味を探る

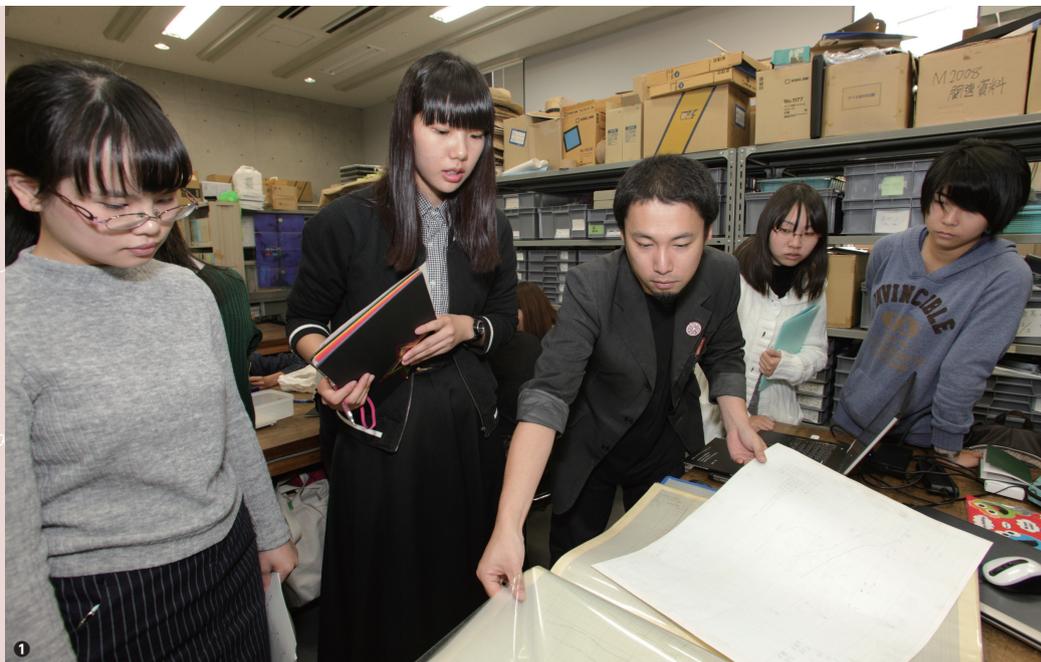
長野県安曇野市での10日間にわたる古墳発掘調査を終えた実習生たちは、渋谷(東京都)にある國學院大學考古学研究室に戻り、調査結果の整理と分析作業に入りました。研究室に、穂高古墳群F9号墳で今回新たに発見した数十点の遺物(出土品)、測量データ、写真データ、実習生たちが記録した日誌類など、すべての調査資料が一箇所に集められます。整理・分析作業は「遺物」「図面」「写真」「日誌」班に分かれ、お互いに連携しながら進められました。

遺物班は、出土した貴重な遺物を1点1点でいねいに洗浄し、そのすべてに白い小さな文字で通し番号を付けていきます。2009年からおこなわれている過去6回の調査分と合わせ、通し番号は474に達しました。発掘時に「やった!」と大きな歓声があがった2つの馬具はサビに覆られていました。鉄鏃(鉄製のやり)も同様です。

これらは劣化しないよう、エタノールに漬け、金属内部の水分を飛ばす処理を施しました。一気に100%のエタノールに漬けると金属が脆くなるので、最初は濃度50%程度に薄めたものを。丹念に筆で表面の汚れを落としながら、徐々に濃度を上げていきます。この作業ももちろん実習生の考古女子たちがおこないます。

## モノからコトへ。古代人の姿が見えてきた

馬具がきれいになり、詳しい構造も明らかになりました。実習を指導する深澤太郎准教授が現地でも推理したように、やはり古代の轡(乗馬の際、手綱につなぐ金具。両端が輪になっていて馬の口にくわえさせる)のようです。輪の部分の組



①測量結果や写真を基に、調査内容を正確な図面にする。②出土状況を参考にしながら、過去の調査で見つかった遺物と接合するか確認。シールの色が違うものはそれぞれ別の年度に出土した破片。③金属製の遺物はサビが増えないようエタノールに浸し乾燥。馬具の汚れも慎重に落とす。

み合わせ方から2頭分と見られています。「2つの轡は別々のタイプのもので、これは、被葬者の性格を考えるヒントになるかもしれません」(深澤准教授)

図面班は、写真班と連携しながら、測量データに基づく正確な図面を作成していきます。大切なのは手を抜かず、正確に描くこと。そうすることで過去6回の調査図面と重ね、この古墳の全体像を推理することができるからです。また彼女たちは遺物班や日誌班とも連携します。「この遺物はどのグリッド(区画)だった?」「B3です」「何日目に出たか分かりますか?」「写真はありますか?」と互

いの情報をやりとりをしながら、図面に遺物の出土状況も記していきます。

このように、発掘時にはバラバラだった情報、モノをつなげ、それぞれが持つ意味を見つけやすくする作業が「整理」です。そこに過去の調査結果も統合して「分析」することで、この古墳に関わった古代の人々の姿が浮かびあがってくるのです。なお、石室床部から採取した赤い顔料は現在分析中とのこと。もしこれが埋葬時に遺体周辺に塗られたものならば、近くで出土したガラス小玉は古代人のネックレスだったのかもしれませんが。その結果も次回のレポートで報告します。

# 考古学実習レポート 第4回 (報告編)

実習参加者の7割を占める“考古女子”の奮闘を4回にわたって紹介します。

## 石棺に埋葬された古代人の姿を再現する

昨年4月から始まった「考古学調査」の授業で考古学調査の基礎を学んだ実習生たち。8月には長野県安曇野市でホンモノの古墳（穂高古墳群 F9 号墳）の発掘調査に参加。古代の轡（くつわ。乗馬の際、馬の口にくわえさせ、手綱につながぐ金具）2点を見つけるなど、見事な成果を挙げました。しかし、学術調査は掘り出して終わりではありません。彼女たちは渋谷にある國學院大學考古学実習室に戻り、年末まで、出土した貴重な遺物の整理、分析を続けました。そして新しい年が明け、いよいよこれまでの実習の成果を「2015年度 発掘調査報告書」としてまとめる作業に取りかかっています。

熱気ある編集会議で、深澤太郎准教授が実習生たちに何度も確認するよう指導したのは、各遺物が出土した位置を示す測量データでした。今回の調査で新たに見つかった切子玉、ガラス小玉の大半はある特定のグリッド（区画）から出土していました。これらの装飾品が、この古墳に埋葬されている古代人のネックレスや腕輪だったと考えると、その位置関係や状況を正確に知ること、埋葬当時の様子を推理できます。ガラス小玉の近くにあって赤い土は、化学分析の結果、酸化第二鉄だということが判明しました。この素材は弁柄（ベンガラ）と呼ばれ、古墳時代には呪的な顔料として、埋葬施設や葬者の周辺に塗るなどしてつかわれていたことがわかっています。2014年の調査では、この近くのグリッドから耳環（古代のイヤリング）も出土していますから、これらの位置関係から、埋葬者の姿やファッションの様子が浮かび上がってくる日も近そうです。



①古墳時代後期から存在したF9号墳の全貌がわかるよう、出土した遺物の意味を考えながら展示品を選んでいく。②編集会議では出土した2つの轡の構造が違うことが報告された。1つには修理痕があり、埋葬された古代人が実際に使用していた馬具だった可能性も。③見栄えに配慮しながらも、モノの向こうにあるヒトや歴史を表現するように並べる。

## 博物館展示が決定！古墳時代の轡、鉄鏃も

2009年から続く穂高古墳群 F9 号墳調査では、これまで 474 点の遺物が出土しています。今回、この古墳の特徴を示す出土品を選び、國學院大學博物館（渋谷区）で特別展示をすることが決まりました。もちろんこのレポートで紹介した2つの轡、鉄鏃（てつぞく。鉄製のやじり）も公開される予定。この展示も実習生にとっては勉強の場です。「斜めに配置すると迫力が出ませんか」「後世に埋められたものは後ろがいいのでは？」と意見を出し合っていました。自分たちが発掘

し、整理、分析したモノですから、当然思い入れも深くなります。並べ方にも意味を持たせ、モノの向こうにある古代のヒトや生活を正しく伝えたいという気持ちが現われていました。展示パネルも彼女たちがつくりまします。「本物の持つ迫力を感じに来てください」（深澤准教授）とのこと。お近くの方はぜひ。

### 國學院大學博物館にて展示公開決定！

國學院大學考古学研究室が考古学実習の一貫としておこなってきた、穂高古墳群の調査・研究の成果を展示公開いたします。

【期間】平成 28 年 2 月 26 日～4 月 30 日【場所】國學院大學博物館【時間】午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）【開館日】通年（土・日・祝日含む）【休館日】不定期【入館料】無料